

## 過去と現在の里山における身近な動植物の利用 ～人と自然の博物館利用者へのアンケート調査から～

橋本佳延<sup>1)</sup>\*・坂田宏志<sup>2)</sup>\*\*・高野温子<sup>3)</sup>・三橋弘宗<sup>4)</sup>\*\*・布施静香<sup>3)</sup>

### The questionnaire results the use of animals and plants in imminent environments in Satoyama in Japan

Yoshinobu HASHIMOTO<sup>1)</sup>\*, Hiroshi SAKATA<sup>2)</sup>\*\*, Atsuko TAKANO<sup>3)</sup>,  
Hiromune MITSUHASHI<sup>4)</sup>\*\* and Shizuka FUSE<sup>3)</sup>

#### 要 旨

兵庫県立人と自然の博物館の「ひとはくセミナー倶楽部」の会員 1,250 人を対象に、幼少時および現在の動植物の利用経験に関するアンケート調査を行った。458 の有効回答を集計した結果、植物については食用目的では幼少時で 112 種、現在で 106 種、包装用目的では幼少時で 19 種、現在で 20 種、販売目的で採集した種は幼少時で 36 種、現在で 29 種、材料用で採集した種は幼少時では 31 種、現在では 47 種についての採集経験が確認された。動物については食用目的で狩猟した種は幼少時で 47 種、現在で 24 種、毛皮目的で狩猟した種は幼少時で 9 種、現在で 11 種、販売目的で狩猟した種は幼少時で 14 種、現在で 5 種についての採集経験が確認された。また自由筆記による回答項目においては様々な種について多様な利用方法が確認された。

**キーワード:** 里山, 動物, 植物, 利用, 幼少時, 現在

#### はじめに

近年、里山が育んできた生物多様性の保全は日本社会全体の課題として認知されている。我が国の生物多様性の保全および持続可能な利用についての理念や指針を示した新・生物多様性国家戦略（環境省（編），2002）では、里山をはじめとする二次的自然の荒廃の問題は日本の生物多様性にせまる 3 つの危機の 1 つとして指摘されている。里山は、人とそこに住む生物が相互に強く影響

を及ぼしあいながら形成されてきた自然であり、その環境の保全・再生を進め、現在の我々のライフスタイルを省みて人と自然の関係性を再構築するためには、生物学のみだけでなく考古学、民俗学、法学、倫理学、社会学、教育学といった既存の様々な学問分野からのアプローチが必要といえる。そのため、近年では里山の課題解決のための学際的アプローチを試みる学問として「里山学」が提唱されている（丸山・宮浦（編），2007）。

日本人の動植物の狩猟・採集・農耕などを通じた自然

<sup>1)</sup> 兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境再生研究部 〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘 6 丁目 Division of Ecological Restoration, Museum of Nature and Human Activities, Hyogo; Yayoigaoka 6, Sanda, 669-1546 Japan

\* Corresponding author: Yoshinobu Hashimoto; quercus@hitohaku.jp

<sup>2)</sup> 兵庫県森林動物共生センター 〒669-3842 兵庫県丹波市青垣町沢野 940 Wildlife Management Research Center, Hyogo, Sawano 940, Aogakicho, Tanba City, Hyogo, 669-3842 Japan

<sup>3)</sup> 兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境評価研究部 〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘 6 丁目 Division of Natural History, Museum of Nature and Human Activities, Hyogo; Yayoigaoka 6, Sanda, 669-1546 Japan

<sup>4)</sup> 兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境マネジメント研究部 〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘 6 丁目 Division of Nature and Environmental Management, Museum of Nature and Human Activities, Hyogo; Yayoigaoka 6, Sanda, 669-1546 Japan

\*\* 兼任: 兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘 6 丁目 Institute of Natural and Environmental Sciences, University of Hyogo; Yayoigaoka 6, Sanda, 669-1546 Japan

との関わりについては、照葉樹林文化論やブナ帯文化論に代表される民俗学的・考古学的アプローチによる成果(中尾, 1966; 上山, 1969; 佐々木, 1982; 佐々木, 1993; 梅原ほか, 1995; 赤羽, 2001; 榎, 2004 など)において、狩猟・採集されていた動植物の種類やその利用方法と利用年代、起源や歳事との関わりなどについての多数の記載が認められる。しかし、これらの記述で扱われる動植物は、特徴的な文化に関連する種が多く、日常的に接していたと考えられる種についてはあまりみられない。また種の利用方法、歳事との関わりなどの定性的記述が中心で、里山の動植物の利用度などをはかる定量的な資料は少ない。過去における身近な動植物との関わりを扱ったアンケート調査による研究には、根本ほか(2006)の茨城県における薬用植物の利用実態について子・父母・祖父母の3世代を対象に行った研究や、大越ほか(2003)、大越ほか(2004)の子ども時代の自然体験と動植物の認識との関係の解明を目的として児童の父母を対象に行った教育学的研究などがあるが、動植物の利用目的が薬用や遊び、食用などに限られ、人と自然の多様な関係性を示す資料としては十分とはいえない。大正、昭和初期の日常生活における自然との関わりを知る語り部が減り続けている現在、近現代の日本における採集・狩猟・農耕などを通じた日常的な里山の動植物の利用体験を多くの語り部より聞き取り、書き記すことは日常の生き生きとした人と自然の関わりを後世に伝えるために必要不可欠といえる。

そこで本稿では、身近な自然に対して関心の高い自然史系博物館利用者を対象に幼少時および現在の動植物の利用に関するアンケート調査を行い、近現代の日本における多様な動植物の利用体験の実態を示す基礎資料としてとりまとめた結果を報告する。なお、本資料は集計結果の速報であり、結果の詳細な検討や解析については今後実施するものとした。

## 調査方法

### アンケート調査の対象と実施方法

調査は、幼少時および現在の動植物の利用状況の実態について尋ねるアンケートを送付し回答していただく郵送調査法によって行った。アンケート対象者は兵庫県立人と自然の博物館の「ひととはくセミナー倶楽部」(会員数2,170人、2007年2月末現在)の会員より無作為に抽出した1,250人で、2007年3月7日にアンケート回答用紙にアンケートの趣旨を説明した依頼文と返信用封筒を同封して郵送し、同年4月30日までに回答があったものを集計の対象とした。「ひととはくセミナー倶楽部」とは、兵庫県立人と自然の博物館が博物館利用者の生涯学習の支援を目的として、兵庫県立人と自然の博物館が

実施するセミナーを中心とした生涯学習支援事業に関する情報を提供する制度であり、その会員の多くは生き物や自然環境に対する興味・関心の高い方々といえる。

### 設問の内容

アンケートの項目は、付録1のアンケート用紙に示す、植物の利用に関する項目、動物の利用に関する項目、回答者の属性に関する項目の3つとした。

植物の利用に関する項目では、幼少時と現在における「食用利用」「包装利用」「材料利用」「販売用」「そのほかの利用」の5つの利用形態に分けて質問を設けた。「食用利用」「包装利用」「材料利用」「販売用」の質問では、それぞれの利用形態で一般的に利用が知られている植物の種名を選択肢として挙げ、採集経験のある種をすべて選択させるほか、「そのほか」の欄を設けて植物名を自由に筆記させる様式とした。また「そのほかの利用」においては、植物の種名とその利用方法について自由に筆記させる様式とした。

動物の使用に関する項目では、幼少時と現在における「食用利用」「毛皮利用」「販売用」「そのほかの利用」の4つの利用形態に分けて質問を設けた。「食用利用」「毛皮利用」「販売用」の質問では、それぞれの利用形態で一般的に利用が知られている動物の種名を選択肢として挙げ、狩猟経験のある種をすべて選択させるほか、「そのほか」の欄を設けて動物名を自由に筆記させる様式とした。また「そのほかの利用」においては、動物の種名とその利用方法について自由に筆記させる様式とした。

回答者の属性に関する項目では、幼少時に暮らしていた場所、現在暮らしている場所、年齢層、性別の4つの質問を設けた。幼少時に暮らしていた場所および現在暮らしている場所については、県名(ただし兵庫県内については市町名まで)を自由に筆記させる回答様式とし、年齢層については10代、20代、30代、40代、50代、60代、70代、80代以上の8つの選択肢から1つ選択させる様式とした。

### 集計方法

集計は、回答者の属性に関する質問についてすべて記入されている回答(以後、有効回答)のみを対象に行った。集計項目は、回答者の属性に関するものとして、回答者数、アンケート回収率、有効回答率、男女比、年齢層分布(男女別)、幼少時・現在の居住場所の分布の6項目とした。なお幼少時・現在の居住場所の集計では、回答された住所を「兵庫県内」「兵庫県外」に区分し、さらに「兵庫県内」については兵庫県の県民局行政区域に相当する「神戸」「阪神南」「阪神北」「東播磨」「北播磨」「中播磨」「西播磨」「但馬」「丹波」「淡路」の10地域に、「兵

庫県外」については「近畿」「四国」「中国」「中部」「九州」「関東」「東北」「海外」の8地域に細区分し、それぞれの回答数を集計した。居住地域が複数地域にまたがると回答したものについては、兵庫県内の複数の地域の場合は「県内複数」、兵庫県内および兵庫県外の複数の場合は「兵庫県および県外」、兵庫県外の複数地域にまたがる場合は「県外複数」とした。また、県外とのみ回答したものについては「県外不明」として集計した。

植物の利用の「食用利用」「包装利用」「材料利用」「販売用」については、項目ごとに選択肢にあげた種および自由筆記で回答された種の一覧を作成し、それらの種に対する回答数を「幼少時」と「現在」に分けて集計した。「そのほかの利用」の項目の集計では、回答のあった種の一覧を作成したのち、種ごとに幼少時および現在の利用方法の一覧を作成し、それぞれの利用方法について回答数を集計した。ただし利用方法の項目に書かれた利用形態が「食用利用」「包装利用」「材料利用」「販売用」のいずれかに該当する場合は、それらの項目で扱うこととし

た。

動物の利用の「食用利用」「毛皮利用」「販売用」については、項目ごとに選択肢にあげた種および自由筆記で回答された種の一覧を作成し、それらの種に対する回答数を「幼少時」と「現在」に分けて集計した。「そのほかの利用」の項目の集計では、回答のあった種の一覧を作成したのち、種ごとに幼少時および現在の利用方法を作成してそれぞれの回答数を集計した。利用方法の項目に書かれた利用形態が「食用利用」「毛皮利用」「材料利用」「販売用」のいずれかに該当する場合は、それらの項目で扱うこととした。

なお、自由筆記で回答のあった植物名・動物名のうち「ササ」「グミ」「カモ」というような総称で回答されているものについては、総称による回答として集計した。また、俗称による植物名の回答については、八坂書房(編)(2001)を用いて標準和名に読み替えて集計し、読み替えることのできない不明種については「特定不能」とし、回答そのものを備考欄に記した。

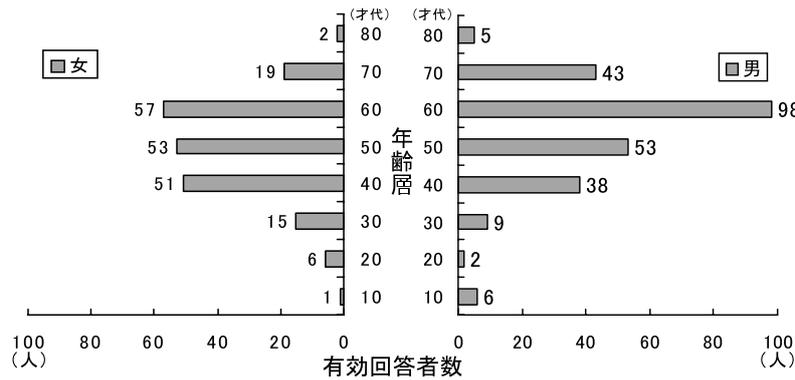


図1 有効回答者の年齢構成 (男女別)

表1 有効回答者の幼少時および現在の住所

		幼少時暮らしていた地域																			総計	比率 (%)			
		兵庫県内										兵庫県外													
		神戸	阪神南	阪神北	東播磨	北播磨	中播磨	西播磨	但馬	丹波	淡路	県内複数	兵庫県および県外	近畿	四国	中国	中部	九州	関東	東北			国外	県外複数	県外不明
現在暮らしている地域	兵庫県内	33	2	3	2	3	2	4	2	4	2	3	10	3	3	1	3	1	1	1	1	1	1	84	18.3
	兵庫県外	7	15	3	1		2					1	2	7		3	6	7	1	1		4	61	13.3	
	兵庫県内	10	12	20	1	5	1	1	6	7	2	2	3	30	5	17	11	8	1	1		5	1	149	32.5
	兵庫県外	4		1	7	1	1	2	1					3		1		1						23	5.0
	兵庫県内	2			1	12																		16	3.5
	兵庫県外	1			2			10	2	1				1			1		1					19	4.1
	兵庫県内							8					1			1								10	2.2
	兵庫県外	1							9	1			1	1										13	2.8
	兵庫県内				1	1		1			7						1	1						13	2.8
	兵庫県外											3			1									4	0.9
兵庫県内								1															1	0.2	
兵庫県外												1											1	0.2	
兵庫県内	2	1			1	2	1		1		1		26	3	6	5	4	2	1		2		58	12.7	
兵庫県外			1															1					1	0.2	
兵庫県内																1							2	0.4	
兵庫県外													1					1					2	0.4	
兵庫県内																							1	0.2	
兵庫県外																							1	0.2	
兵庫県内	60	30	29	14	23	18	19	20	20	6	6	11	82	11	33	24	22	9	6	1	12	2	458	100	
兵庫県外	13.1	6.6	6.3	3.1	5.0	3.9	4.1	4.4	4.4	1.3	1.3	2.4	17.9	2.4	7.2	5.2	4.8	2.0	1.3	0.2	2.6	0.4	100	100	
兵庫県内	53.5											44.1									100	100			

幼少時も現在も兵庫県に暮らしている:235人(51.3%)  
 幼少時に暮らしていた地域に現在も暮らしている:164人(35.8%)

## 結 果

## 回答者の属性

アンケートの回答数は469（回収率 37.5%）で、有効回答数はそのうち458、有効回答率は36.7%であった。回答者の男女比は男性55.3%、女性44.7%で男性のほうが約10%高かった。

図1に男女別の年齢構成を示した。これをみると男性の多くは40代から70代の年齢層で占めており、60代が最も多かった（図1）。一方、女性の回答者の多くは40代から60代の年齢層で占めており、60代が最も多かったものの40代、50代との差は男性に比べて小さかった。（図1）

回答者の幼少時および現在の居住地の分布を表1に示した。これをみると回答者が幼少時に過ごした地域は、兵庫県内が53.5%で、そのうち神戸地域の比率が13.1%と他に比べ高かったが、それ以外の地域については7%未満で大きな違いはみられなかった。また、兵庫県外は44.1%で、そのうち近畿地方が17.9%と多かったが、それ以外の地方については6%未満と大きな差はみられなかった。一方、回答者が現在過ごしている地域は兵庫県内が85.8%で、兵庫県外の14.0%と比べて多く、兵庫県内でも博物館の所在地である阪神北地域の32.5%が最も多く、次いで神戸地域の18.3%、阪神南地域の13.3%と多く、阪神間に住む回答者が64.1%を占めた。幼少時も現在も兵庫県内で暮らしている回答者は51.3%と半数以上で、幼少時と同一地域で暮らしている回答者は全体の35.8%であった。このようなことから、本資料において、幼少時の回答については主に兵庫県を含む近畿地方の地域性が、現在の回答については兵庫県阪神地域の地域性が強く反映されている可能性がある。

## 植物の利用

表2に食用のために採集した植物とその回答数を示した。種名による回答は幼少時では112種、現在では106種と幼少時の方が6種多く、総称による回答は幼少時では12、現在では11であった。幼少時のみに回答があった種は47種、現在のみに回答があった種は41種だった。選択肢による回答で多かった上位3つの回答は幼少時ではヨモギ（89.4%）、ワラビ（81.4%）、フキ（76.4%）で、現在ではワラビ（54.8%）、フキ（51.5%）、ヨモギ（48.0%）であった。自由筆記回答で多かった種は、幼少時ではスギナ（ツクシ）（13.8%）、クワ（4.4%）、ヤマモモ（2.4%）で、現在ではスギナ（ツクシ）（10.3%）、クサソテツ（2.6%）であった。

表3に包装用のために採集した植物とその回答数を示した。種名による回答は幼少時では19種、現在では

表2 食用利用の目的で採集した植物とその回答数（有効回答総数：458。○は有効回答総数に対する割合（%）を示す。）

総称および種名	回答数		備考○の数字は回答数
	幼少時	現在	
<b>種名による回答</b>			
★ ヨモギ	411 (89.7)	220 (48.0)	<幼少時>おもち(1) <現在>お茶
★ ワラビ	373 (81.4)	251 (54.8)	
★ フキ	350 (76.4)	236 (51.5)	
★ ゼンマイ	318 (69.4)	153 (33.4)	
★ セリ	279 (60.9)	143 (31.2)	
★ イタドリ	270 (59.0)	109 (23.8)	
★ アケビ	267 (58.3)	132 (28.8)	
★ ドクダミ	241 (52.6)	99 (21.6)	<現在>お茶(4)
★ ウド	207 (45.2)	110 (24.0)	
★ タラ	196 (42.8)	176 (38.4)	
★ ジネンジョ	193 (42.1)	81 (17.7)	
★ ヤマグリ	155 (33.8)	40 (8.7)	
★ ノビル	138 (30.1)	109 (23.8)	
★ シイの実	122 (26.6)	50 (10.9)	
★ ヤマブドウ	116 (25.3)	34 (7.4)	
★ センブリ	110 (24.0)	16 (3.5)	
★ ミズナ	82 (17.9)	44 (9.6)	
スギナ（ツクシ）	63 (13.8)	47 (10.3)	<現在>砂糖をまぶしておかしに(1)
★ トチノキ	52 (11.4)	19 (4.1)	
★ クズ	46 (10.0)	20 (4.4)	<現在>お茶(1)
★ スズタケ	41 (9.0)	39 (8.5)	
★ アザミ	32 (7.0)	25 (5.5)	
★ ギボウシ	24 (5.2)	18 (3.9)	
★ サルナシ	23 (5.0)	24 (5.2)	
クワ	20 (4.4)	3 (0.7)	<現在>フルーツピネガー(1)
★ クサギ	18 (3.9)	8 (1.7)	
★ エビツル	14 (3.1)	6 (1.3)	
★ リョウブ	14 (3.1)	15 (3.3)	
ヤマモモ	11 (2.4)	4 (0.9)	<幼少時>おやつ(1)
チガヤ	9 (2.0)	1 (0.2)	<現在>お茶(1)
ミツバ	8 (1.7)	5 (1.1)	
★ イラクサ	6 (1.3)	12 (2.6)	
クリ	6 (1.3)	3 (0.7)	
ユキノシタ	6 (1.3)	7 (1.5)	
ケンボナシ	5 (1.1)	3 (0.7)	
コシアブラ	5 (1.1)	9 (2.0)	
ナツハゼ	5 (1.1)	4 (0.9)	
ヨメナ	5 (1.1)	4 (0.9)	
クサソテツ	4 (0.9)	12 (2.6)	
ゲンノショウコ	4 (0.9)	2 (0.4)	<幼少時>お茶(2)
ヒシ	4 (0.9)	1 (0.2)	
ミョウガ	4 (0.9)	3 (0.7)	
クコ	3 (0.7)	1 (0.2)	
サルトリイバラ	3 (0.7)	1 (0.2)	
サンショウ	3 (0.7)	7 (1.5)	
ヤブカンゾウ	3 (0.7)	5 (1.1)	
ユスラウメ	3 (0.7)	2 (0.4)	
イチョウ	2 (0.4)	2 (0.4)	
カキ	2 (0.4)	1 (0.2)	
ガマズミ	2 (0.4)	1 (0.2)	
クサイチゴ	2 (0.4)	1 (0.2)	
ハコベ	2 (0.4)	1 (0.2)	
イタドリ	1 (0.2)	1 (0.2)	
イワナシ	1 (0.2)	1 (0.2)	
ウメ	1 (0.2)	1 (0.2)	
オオバコ	1 (0.2)	1 (0.2)	
△ サンシュユ	1 (0.2)	1 (0.2)	<現在>果実酒(1)
シソ	1 (0.2)	1 (0.2)	
△ シロツメクサ	1 (0.2)	1 (0.2)	
ススキ	1 (0.2)	1 (0.2)	<幼少時>穂がでる前の若いときのもの(1) <現在>お茶(1)
ツワブキ	1 (0.2)	1 (0.2)	
フユイチゴ	1 (0.2)	8 (1.7)	<現在>フルーツピネガー(1)
マツブサ	1 (0.2)	1 (0.2)	

表2 つづき

総称および種名	利用時期		備考()の数字は回答数
	幼少時	現在	
ヤブガラシ	1 (0.2)	1 (0.2)	
ワサビ	1 (0.2)	2 (0.4)	
スイバ	6 (1.3)	・	
ムクノキ	5 (1.1)	・	
△ ナツメ	4 (0.9)	・	
△ ニッケイ	3 (0.7)	・	
ウバユリ	2 (0.4)	・	<幼少時>根からデンプン質をとってかたくり粉にした(2)
カタバミ	2 (0.4)	・	
ササユリ	2 (0.4)	・	
チマキザサ	2 (0.4)	・	
ニワトコ	2 (0.4)	・	
ハナイカダ	2 (0.4)	・	
フジ	2 (0.4)	・	<幼少時>お茶(2)
ヘビイチゴ	2 (0.4)	・	
ヤドリギ	2 (0.4)	・	
△ レンゲ	2 (0.4)	・	
アクシバ	1 (0.2)	・	
アサドリ	1 (0.2)	・	
△ イチゴ	1 (0.2)	・	
△ イチジク	1 (0.2)	・	
イヌガヤ	1 (0.2)	・	
ウグイスカグラ	1 (0.2)	・	
ウコギ	1 (0.2)	・	
ウラジロ	1 (0.2)	・	
エノキ	1 (0.2)	・	
オニユリ	1 (0.2)	・	
カラスノエンドウ	1 (0.2)	・	<幼少時>お茶(1)
カワラケツメイ	1 (0.2)	・	
カワラヨモギ	1 (0.2)	・	
△ キササゲ	1 (0.2)	・	
ギンギン	1 (0.2)	・	
△ サトウキビ	1 (0.2)	・	
△ サルビア	1 (0.2)	・	
シュンラン	1 (0.2)	・	
スズメノエンドウ	1 (0.2)	・	<幼少時>お茶(1)
スベリヒユ	1 (0.2)	・	
スモモ	1 (0.2)	・	
チドメグサ	1 (0.2)	・	
ツノハシバミ	1 (0.2)	・	
ナワシログミ	1 (0.2)	・	
ノイバラ	1 (0.2)	・	
ハイイヌガヤ	1 (0.2)	・	
バイカモ	1 (0.2)	・	
ハス	1 (0.2)	・	
△ ハブソウ	1 (0.2)	・	
ミゾソバ	1 (0.2)	・	
ムギ	1 (0.2)	・	
モミジイチゴ	1 (0.2)	・	
ヤマボウシ	1 (0.2)	・	
ノカンゾウ	・	7 (1.5)	
△ オランダガラシ	・	5 (1.1)	
△ セイヨウカラシナ	・	4 (0.9)	
ウワミズザクラ	・	3 (0.7)	<現在>果実酒(1)
マタタビ	・	3 (0.7)	
アキグミ	・	2 (0.4)	
カヤ	・	2 (0.4)	<現在>細くスライスしてパン、モチ、焼き菓子に入れる
カンゾウ	・	2 (0.4)	
△ キクイモ	・	2 (0.4)	
ギョウジャニンニク	・	2 (0.4)	
ナズナ	・	2 (0.4)	
ナワシロイチゴ	・	2 (0.4)	<現在>フルーツピネガー(1)
ノビル	・	2 (0.4)	
マテバシイ	・	2 (0.4)	
ムベ	・	2 (0.4)	
ヤブレガサ	・	2 (0.4)	

表2 つづき

総称および種名	利用時期		備考()の数字は回答数
	幼少時	現在	
アマナ	・	1 (0.2)	
△ アレチノギク	・	1 (0.2)	
イヌビワ	・	1 (0.2)	
ウスノキ	・	1 (0.2)	
オニグルミ	・	1 (0.2)	
カジイチゴ	・	1 (0.2)	
クマザサ	・	1 (0.2)	
クロモジ	・	1 (0.2)	<現在>お茶(1)
ザイフリボク	・	1 (0.2)	
サルナシ	・	1 (0.2)	<現在>果実酒(1)
スタジイ	・	1 (0.2)	
タカノツメ	・	1 (0.2)	
△ ダリア	・	1 (0.2)	
ツリガネニンジン	・	1 (0.2)	
ニリンソウ	・	1 (0.2)	
△ ハチク	・	1 (0.2)	
ハリギリ	・	1 (0.2)	
△ ベニバナボロギク	・	1 (0.2)	
△ ボタン	・	1 (0.2)	
ホトケノザ	・	1 (0.2)	
△ メリケンカルカヤ	・	1 (0.2)	
△ モウソウチク	・	1 (0.2)	
モミジガサ	・	1 (0.2)	
ヤマザクラ	・	1 (0.2)	
ユズ	・	1 (0.2)	
※ マツタケ	5 (1.1)	・	
※ アミタケ	1 (0.2)	・	
※ シメジ	1 (0.2)	・	
※ ハツタケ	1 (0.2)	・	
※ ヒラタケ	1 (0.2)	・	
※ コウタケ	2 (0.4)	・	
※ ナメタケ	2 (0.4)	・	
※ ショウロ	・	1 (0.2)	
※ 特定不能	6 (1.3)	2 (0.4)	<幼少時>クボガキ(1), シュウロ(1), スイスイ(1), テツドウグサ(1), スベ(1), 山ゴボウ(1)<現在>ツルマメ(1), ボンナ(1)
<b>総称による回答</b>			
キイチゴ類	17 (3.7)	7 (1.5)	
タンポポ類	6 (1.3)	6 (1.3)	
グミ類	5 (1.1)	・	<幼少時>おやつ(1)
タケノコ	6 (1.3)	5 (1.1)	
クルミ類	2 (0.4)	2 (0.4)	
サクラ類	1 (0.2)	2 (0.4)	
ヤマノイモ類	1 (0.2)	2 (0.4)	
イチジク類	1 (0.2)	・	
カンゾウ類	1 (0.2)	・	
ノイバラ類	1 (0.2)	・	
マキ類	1 (0.2)	・	
マツ類	1 (0.2)	・	
ドングリ	・	2 (0.4)	
ツバキ類	・	1 (0.2)	
カラスノエンドウ類	・	1 (0.2)	
ヤマイモ類	・	1 (0.2)	
木の芽	・	1 (0.2)	
※ キノコ類	4 (0.9)	6 (1.3)	
総称数	12	11	キノコ類は除く
種数	112	106	キノコ類は除く
野生種	96	95	
うち外来種数	11	12	
栽培または園芸種	16	11	

★は選択肢による回答, △は外来種, ※はキノコ類, 網掛けの種は栽培または園芸種.

20種とほぼ同じで、総称による回答は幼少時では5、現在は4であった。幼少時のみに回答があった種は7種、現在のみに回答があった種は8種だった。選択肢による回答が多かった上位3つの回答は、幼少時では竹の皮(56.3%)、カシワ(36.5%)、ササ(36.5%)で、現在では竹の皮(14.6%)、フキ(13.5%)、サルトリイバラ(11.1%)であった。自由筆記回答が多かった植物は、幼少時のハラン(2.2%)であった。

表4に販売のために採集した植物とその回答数を示した。種名による回答は幼少時では36種、現在では29種と幼少時の方が多く、総称による回答は幼少時では4、現在では4であった。幼少時のみに回答があった種は14種、現在のみに回答があった種は7種だった。選択肢による回答が多かった上位3つの回答は幼少時

表3 包装利用の目的で採集した植物とその回答数 (有効回答総数: 458. ()内は有効回答総数に対する割合(%)を示す.)

総称および種名	利用時期		備考()の数字は回答数
	幼少時	現在	
<b>種名による回答</b>			
★ カシワ	167 (36.5)	35 (7.6)	
★ フキ	156 (34.1)	62 (13.5)	
★ サルトリイバラ	143 (31.2)	51 (11.1)	
★ ススキ	62 (13.5)	18 (3.9)	
★ ショウガ	60 (13.1)	19 (4.1)	
★ ホオノキ	58 (12.7)	33 (7.2)	
★ クズ	40 (8.7)	14 (3.1)	
★ ヨシ	34 (7.4)	7 (1.5)	
★ チガヤ	14 (3.1)	6 (1.3)	
ハラン	10 (2.2)	4 (0.9)	
★ アカメガシワ	8 (1.7)	5 (1.1)	
カキ	3 (0.7)	3 (0.7)	
ミョウガ	3 (0.7)	・	
サトイモ	1 (0.2)	・	
シソ	1 (0.2)	・	
ハス	1 (0.2)	・	
ヒサカキ	1 (0.2)	・	
△ ホオズキ	1 (0.2)	・	
ヤブツバキ	1 (0.2)	・	
イチョウ	・	1 (0.2)	
ウラジロ	・	1 (0.2)	
オニグルミ	・	1 (0.2)	
クマザサ	・	1 (0.2)	
ケンポナシ	・	1 (0.2)	
△ ナツメ	・	1 (0.2)	
ヤエザクラ	・	1 (0.2)	
ワサビ	・	1 (0.2)	
特定不能	1 (0.2)	・	
<b>総称による回答</b>			
★ 竹の皮	258 (56.3)	67 (14.6)	
★ ササ	167 (36.5)	43 (9.4)	
サクラ類	5 (1.1)	3 (0.7)	
ツバキ類	2 (0.4)	2 (0.4)	
シダ類	1 (0.2)	・	
総称数	5	4	
種数	19	20	
野生種	12	14	
うち外来種数	1	1	
栽培または園芸種	6	5	

★は選択肢による回答、△は外来種、網掛けの種は栽培または園芸種。

表4 販売利用の目的で採集した植物とその回答数 (有効回答総数: 458. ()内は有効回答総数に対する割合(%)を示す.)

総称および種名	回答数		備考()の数字は回答数
	幼少時	現在	
<b>種名による回答</b>			
★ フキ	53 (11.6)	17 (3.7)	
★ フラビ	51 (11.1)	18 (3.9)	
★ ゼンマイ	43 (9.4)	15 (3.3)	
★ ジネンジョ	32 (7.0)	10 (2.2)	
★ ウド	25 (5.5)	10 (2.2)	
★ ドクダミ	23 (5.0)	4 (0.9)	
★ ヨモギ	22 (4.8)	11 (2.4)	
★ セリ	22 (4.8)	9 (2.0)	
★ タラ	17 (3.7)	12 (2.6)	
★ センブリ	12 (2.6)	2 (0.4)	
★ ミズナ	10 (2.2)	7 (1.5)	
★ トチノキ	9 (2.0)	2 (0.4)	
★ スズタケ	7 (1.5)	5 (1.1)	
★ イタドリ	7 (1.5)	3 (0.7)	
★ アケビ	6 (1.3)	5 (1.1)	
★ ノビル	5 (1.1)	3 (0.7)	
★ サルトリイバラ	5 (1.1)	2 (0.4)	
★ シイの実	4 (0.9)	2 (0.4)	
★ ギボウシ	3 (0.7)	2 (0.4)	
★ クズ	3 (0.7)	1 (0.2)	
★ ススキ	3 (0.7)	1 (0.2)	
★ ヤマブドウ	3 (0.7)	1 (0.2)	
★ エビソル	2 (0.4)	・	
ガンビ	2 (0.4)	・	
スギナ	2 (0.4)	・	
★ ヤマグミ	2 (0.4)	・	
★ アザミ	1 (0.2)	・	
★ イラクサ	1 (0.2)	・	
★ クサギ	1 (0.2)	・	
クリ	1 (0.2)	・	
ササユリ	1 (0.2)	・	<幼少時>花期に採集して出荷(1)
チャノキ	1 (0.2)	・	
ハス	1 (0.2)	・	
ミョウガ	1 (0.2)	・	
ヨシ	1 (0.2)	・	
★ リョウブ	1 (0.2)	・	
カヤ	・	2 (0.4)	
アケビ	・	1 (0.2)	
クサソテツ	・	1 (0.2)	
★ サルナシ	・	1 (0.2)	
ツヅラフジ	・	1 (0.2)	<現在>農業祭で販売(1)
フジ	・	1 (0.2)	<現在>農業祭で販売(1)
ヤマモモ	・	1 (0.2)	<現在>農業祭で販売(1)
※ キクラゲ	1 (0.2)	・	<幼少時>乾燥して利用(1)
※ サルノコシカケ	1 (0.2)	・	
特定不能	1 (0.2)	・	<幼少時>イヌウラジロ(?)を小学校でまとめた
<b>総称による回答</b>			
タケ類	2 (0.4)	・	
ツバキ類	2 (0.4)	・	
キイチゴ類	・	1 (0.2)	<現在>ジャム(1)
タケノコ	1 (0.2)	・	
総称数	3	1	キノコ類を除く
種数	36	29	キノコ類を除く
野生種	33	29	
栽培または園芸種	3	0	

★は選択肢による回答、※はキノコ類、網掛けの種は栽培または園芸種。

ではフキ (11.6%), ワラビ (11.1%), ゼンマイ (9.4%) で、現在ではワラビ (3.9%), フキ (3.7%), ゼンマイ (3.3%) であった。自由筆記回答では回答数が多い特筆すべき植物はなかった。

表5に材料用のために採集した植物とその回答数を示した。種名による回答は幼少時では31種、現在では47種と現在の方が16種多く、総称による回答は幼少時では5、現在では9であった。幼少時のみに回答が

あった種は16種、現在のみに回答があった種は32種だった。選択肢による回答で多かった上位3つの回答は幼少時ではススキ (22.7%), フジ (22.5%), アケビ (16.8%) で、現在ではフジ (20.1%), アケビ (20.1%), クズ (14.2%) であった。自由筆記回答で回答数が多かったのは、幼少時はタケ類 (7.5%) で、現在ではドングリ類 (2.2%) であった。

表6にそのほかの利用の目的で採集した植物とその

表5 材料用のために採集した植物とその回答数 (有効回答総数: 458。()内は有効回答総数に対する割合(%)を示す。)

総称および種名	回答数		備考()の数字は回答数
	幼少時	現在	
<b>種名による回答</b>			
★ ススキ	104 (22.7)	45 (9.8)	<現在>ヨモギ, ショウブ, ススキと束ねて屋根に上げる(端午の節句)(1)
★ フジ	103 (22.5)	92 (20.1)	
★ アケビ	77 (16.8)	92 (20.1)	
★ クズ	63 (13.8)	65 (14.2)	
★ ツツラフジ	25 (5.5)	38 (8.3)	
★ チガヤ	22 (4.8)	8 (1.7)	
マダケ	4 (0.9)	1 (0.2)	<幼少時>おもちゃ(竹鉄砲)(1)
イネ	4 (0.9)	2 (0.4)	<幼少時>日用品(縄, 草履, ほうき)(2), 正月の飾り(1) <現在>しめ飾り
ヨシ	2 (0.4)	2 (0.4)	<幼少時>ヨシ笛(1)
サルナシ	1 (0.2)	1 (0.2)	
ヒノキ	1 (0.2)	1 (0.2)	
ムクロジ	1 (0.2)	1 (0.2)	
ヤダケ	1 (0.2)	1 (0.2)	
△ シロツメクサ	1 (0.2)	1 (0.2)	
△ モウソウチク	1 (0.2)	1 (0.2)	
△ ジュズダマ	3 (0.7)	・	<幼少時>お手玉(1)
カヤ	2 (0.4)	・	
コウゾ	2 (0.4)	・	<幼少時>ひも(1), 紙・せんい(1)
シュロ	2 (0.4)	・	<幼少時>ほうき・ハエたたき(1)
ムギ	2 (0.4)	・	
△ アサ	1 (0.2)	・	<幼少時>衣類(1)
イグサ	1 (0.2)	・	
カンスゲ	1 (0.2)	・	<幼少時>わらと一緒にみの作り(1)
クリ	1 (0.2)	・	
コシダ	1 (0.2)	・	
スギ	1 (0.2)	・	
△ ホウキグサ	1 (0.2)	・	<幼少時>庭ぼうき(1)
ホオノキ	1 (0.2)	・	
マタタビ	1 (0.2)	・	
ミツマタ	1 (0.2)	・	<幼少時>紙・せんい
モチノキ	1 (0.2)	・	
サルトリイバラ	・	7 (1.5)	
カラスウリ	・	2 (0.4)	
△ セイタカアワダチソウ	・	2 (0.4)	
タンキリマメ	・	2 (0.4)	
マテバシイ	・	2 (0.4)	<現在>ドングリをブローチ等に工作(1)
リョウブ	・	2 (0.4)	<現在>自然工作用(1)
アベマキ	・	1 (0.2)	<現在>ドングリをブローチなどに工作(1)
アラカシ	・	1 (0.2)	
△ キーウイ	・	1 (0.2)	
キツネノボタン	・	1 (0.2)	
クロモジ	・	1 (0.2)	

総称および種名	回答数		備考()の数字は回答数
	幼少時	現在	
コナラ	・	1 (0.2)	<現在>ドングリをブローチなどに工作(1)
△ ササゲ	・	1 (0.2)	
シダレヤナギ	・	1 (0.2)	
ショウブ	・	1 (0.2)	<現在>ヨモギ, ショウブ, ススキと束ねて屋根に上げる(端午の節句)(1)
ナツフジ	・	1 (0.2)	
△ ナンキンハゼ	・	1 (0.2)	
△ ノササゲ	・	1 (0.2)	
ノブドウ	・	1 (0.2)	
△ ヒマラヤゴヨウ	・	1 (0.2)	
△ ヒマラヤスギ	・	1 (0.2)	
△ フウセンカズラ	・	1 (0.2)	
フジ	・	1 (0.2)	
ヘクソカズラ	・	1 (0.2)	
ミズキ	・	1 (0.2)	
ヤシャブシ	・	1 (0.2)	
ヤブツバキ	・	1 (0.2)	
ヤマガシユウ	・	1 (0.2)	
ヤマザクラ	・	1 (0.2)	
ヤマブドウ	・	1 (0.2)	
ヨモギ	・	1 (0.2)	<現在>ヨモギ, ショウブ, ススキと束ねて屋根に上げる(端午の節句)(1)
特定不能	2 (0.4)	1 (0.2)	<幼少時>シュロウ(1), トウ(1) <現在>シュロウ(1)
<b>総称による回答</b>			
タケ類	16 (3.5)	7 (1.5)	<幼少時>日用品(籠, ハシ, ほうき, 釣り竿)(6), おもちゃ(竹馬, 竹とんぼ, 水鉄砲, スキー, そり)(4) <現在>農業祭で販売(1)
ササ類	5 (1.1)	2 (0.4)	
マツ類	1 (0.2)	8 (1.7)	<現在>リース(1), クラフト(1)
サクラ類	1 (0.2)	1 (0.2)	<現在>染色材料(1)
ドングリ類	1 (0.2)	10 (2.2)	<現在>自然工作の材料
カズラ類	・	1 (0.2)	<現在>リース(1), 籠(1)
ツバキ類	・	1 (0.2)	
ノイバラ類	・	1 (0.2)	
ヤドリギ類	・	1 (0.2)	
総称数	5	9	
種数	31	46	
野生種	20	26	
うち外来種数	5	10	
栽培または園芸種	6	10	

★は選択肢による回答, △は外来種, 網掛けの種は栽培または園芸種。

表6 そのほかの利用目的の採集について回答があった植物とその回答数

種名	利用時期	利用方法 ( )は回答数を示す	種名	利用時期	利用方法 ( )は回答数を示す
<b>&lt;幼少時、現在のどちらでも回答あり&gt;</b>			<b>&lt;幼少時のみで回答あり&gt;</b>		
<b>種名による回答</b>			<b>種名による回答</b>		
ヨモギ	幼少時	血止め (5)	ササ類	幼少時	七夕の飾り (2)
	幼少時	もぐさ (1)		幼少時	神事のかざりもの (1)
	現在	染色 (1)		現在	七夕の飾り (2)
	現在	入浴剤 (3)	マツ類	現在	植物の支柱 (1)
	現在	薬 (転んだ時など) (1)		幼少時	かまどの焚きつけ (1)
ススキ	幼少時	十五夜 (1)		現在	カーテンを束ねておくのに使っている (1)
	幼少時	ドライフラワー、展示 (1)		現在	装飾、鑑賞 (1)
	現在	十五夜 (2)	<b>&lt;幼少時のみで回答あり&gt;</b>		
	現在	プランターの冬の間のマルキ (1)	<b>種名による回答</b>		
	現在	生花 (1)	ゲンノショウコ	幼少時	学校から採集を命じられた (1)
クスギ	幼少時	カプトムシの培地 (2)		幼少時	薬(腹痛薬など) (3)
	幼少時	シイタケ栽培 (1)	オオバコ	幼少時	風邪薬? (1)
	幼少時	堆肥 (1)		幼少時	遊び (2)
	現在	シイタケ等の原木 (1)	クリ	幼少時	皮のなめし (1)
	現在	炭 (1)		幼少時	草木染め (1)
ドクダミ	幼少時	アレルギーの治療に干してお茶やお風呂に利用 (1)	ヒガンバナ	幼少時	サツマイモの床を作ってその中に埋めた。ネズミに種芋を食べられないようにするため (1)
	幼少時	薬 (膿だし、吹き出物の治療、頭痛薬) (9)		幼少時	湿布 (1)
	現在	化粧水 (1)	マダケ	幼少時	お風呂の火を調節。七夕、こいのぼりに利用 (1)
	現在	焼酎に漬けて虫刺されの時に利用 (1)		幼少時	竹鉄砲、スギ鉄砲 (1)
ウラジロ	幼少時	お正月飾り (5)	ヨシ	幼少時	ヨシブエ (1)
	現在	食料盛りつけの飾り用 (1)		幼少時	海苔の簀 (1)
	現在	お正月飾り (2)	コウゾ	幼少時	ひも (1)
	現在	装飾、鑑賞 (1)		幼少時	紙、せんい (1)
カヤ	幼少時	おくどさん、七輪の焚きつけ利用 (1)	イネ	幼少時	ナワ、ゾウリ、ホウキ (1)
	現在	プランターの冬の間のマルキ (1)		幼少時	わらぞうり、正月の飾り (1)
クズ	幼少時	ウサギ、ヤギの餌 (1)	センブリ	幼少時	薬用 (腹痛薬、胃腸薬、頭痛薬、吹き出物の治療) (3)
	現在	リースの土台、カゴ (1)	チドメグサ	幼少時	薬 (止血) (3)
アケビ	幼少時	見本展示 (1)	ハコベ	幼少時	家畜の餌 (鶏、ヤギ、鳥) (3)
	現在	一部食用、観賞用、自宅で栽培 (1)	ユキノシタ	幼少時	薬 (腹痛薬、止血、しもやけ) (3)
カキ	幼少時	魚網の手入れ、コーティング (1)	ヒサカキ	幼少時	神棚のお供え (2)
	現在	皮のナメシ (1)	サカキ	幼少時	神棚のお供え (2)
スギ	幼少時	薪 (2)	△ アサ	幼少時	衣類 (1)
	現在	染色 (1)	△ アサガオ	幼少時	虫さされに薬をもんでつけた (1)
ハラン	幼少時	料理のしきり、押し寿司の敷物 (2)	イタドリ	幼少時	鶏のえさ (1)
	幼少時	未回答 (1)	ウツボグサ	幼少時	のどが痛いとき煎じてうがいをする (1)
	現在	料理のしきり、お寿司の敷物 (1)	オウレン	幼少時	薬草 (1)
ビワ	幼少時	汗もが出来た時に煎じて湯をかける (1)	オヒシバ	幼少時	遊び (1)
	幼少時	風邪の時のどに湿布 (1)	カヤツリグサ	幼少時	遊び (1)
	現在	湿布 (1)	カワラヨモギ	幼少時	煎じて肝臓病の薬にする (1)
△ ホオズキ	幼少時	玩具 (1)	クロモジ	幼少時	正月のもちばな (1)
	幼少時	盆の仏前お供え (1)	サンショウ	幼少時	煮て川に流す (大量) 魚取り (1)
	現在	玩具 (1)	シキミ	幼少時	仏事の小道具 (1)
△ ナンテン	幼少時	進物用たまご、活魚などの添え (1)	シナノキ	幼少時	ミノ等あむのに使用 (1)
	現在	進物用活魚に添える (1)	ジャノヒゲ	幼少時	鉄砲の実 (1)
<b>総称による回答</b>			シュロ	幼少時	ホーキ、ハエタタキ (1)
タケ類	幼少時	遊具 (スキーそり、竹とんぼ、水鉄砲、竹馬) (3)	△ シロツメクサ	幼少時	家畜の餌 (1)
	幼少時	七夕の飾り (2)	△ セネガ	幼少時	薬用 (1)
	幼少時	生活用品 (ハン、籠、庭ホウキ) (3)	セリ	幼少時	家畜の餌 (1)
	幼少時	釣り竿 (2)	ソヨゴ	幼少時	草木染 (1)
	幼少時	梅干しをつつんで飴のようになめていた (1)	ツユクサ	幼少時	色水遊び (1)
	幼少時	壁下地に利用 (1)	ツワブキ	幼少時	トイレトペーパー 但し演習林で (1)
	現在	炭 (1)	トクサ	幼少時	木をみがく (1)
	現在	箸、爛酒、ご飯炊き (1)	ナズナ	幼少時	- (1)
	現在	野菜の支柱 (1)	フキノトウ	幼少時	薬用 (1)
サクラ類	幼少時	染色 (1)	△ ホウキグサ	幼少時	庭ぼうき (1)
	現在	染色 (1)	△ ホウセンカ	幼少時	染色 (1)
	現在	燻製のチップ (1)	ミソソバ	幼少時	家畜の餌 (1)
エノコログサ類	幼少時	子供のおもちゃ (1)	ミツマタ	幼少時	紙、せんい (1)
	現在	ドライフラワー (インテリア用) (1)	ムギ	幼少時	虫かご (1)
			モチノキ	幼少時	鳥モチ (1)
			ユズリハ	幼少時	お供え (1)
			※ サルノコシカケ	幼少時	薬用 (1)

回答数を示した。種名による回答は幼少時が58種、現在が41種と幼少時の方が17種多く、総称による回答は幼少時では9、現在では9であった。幼少時のみに回答があった種は43種、現在のみに回答があったのは28種だった。利用用途についてみると、幼少時では主に「血止め」「もぐさ」「湿布」「腹痛薬」といった薬と

しての利用や、「お正月飾り」「正月のもちばな」「料理の飾り添え」「神棚のお供え」といった装飾利用、「ウサギ、鶏、ヤギの餌」といった飼料としての利用、「草木染め」「色水遊び」といった遊びでの利用、「鳥もち」「魚毒」「漁網の手入れ」「ネズミよけ」など狩猟等に使う薬品としての利用、「薪」「焚きつけ」などの燃料としての利用というように多様な利用形態がみられた。一方、現在の利用用途では、主に「自宅で栽培し鑑賞」「生け花」といった鑑賞利用、「お正月飾り」「料理の飾り添え」「神棚のお供え」といった装飾利用、染料としての利用、「胃薬」「虫さされの薬」といった薬としての利用がみられた。

表6 つづき

種名	利用時期	利用方法 ( )は回答数を示す	
<b>総称による回答</b>			
タンポポ類	幼少時	家畜の餌 (2)	
	幼少時	遊び (2)	
カズラ類	幼少時	ロープの代用 (1)	
コケ類	幼少時	料理の飾り (1)	
ヤナギ類	幼少時	1月14日に餅をさして大黒柱に飾った。(1)	
△ ササゲ	幼少時	盆の仏前お供え (1)	
アザミ	幼少時	ままごと (1)	
<b>&lt;現在のみで回答あり&gt;</b>			
<b>種名による回答</b>			
チガヤ	現在	染料 (1)	
コナラ	現在	シイタケ等の原木 (1)	
	現在	炭 (1)	
マタタビ	現在	猫を喜ばす (1)	
	現在	薬酒 (1)	
△ イチジク	現在	一部食用、観賞用、自宅で栽培 (1)	
イヌツゲ	現在	甲イカの産卵、船にくっつけておく、海中に沈めると寄ってくるので漁る (1)	
イヌビワ	現在	一部食用、観賞用、自宅で栽培 (1)	
△ イリス	現在	生花 (1)	
エノコログサ	現在	カエルのえさやりに使う (1)	
カヤラン	現在	へゴなどに付けて栽培の為 (1)	
キンカン	現在	一部食用、観賞用、自宅で栽培 (1)	
クサギ	現在	染料 (1)	
クワ	現在	一部食用、観賞用、自宅で栽培 (1)	
ササユリ	現在	飾るため (1)	
サルトリイバラ	現在	生花 (1)	
△ セイタカアワダチソウ	現在	染色 (1)	
△ ダリヤ	現在	染色 (1)	
ニワトコ	現在	膀胱炎にいいと聞いたので煎じて飲んでいる (1)	
ヒシ	現在	胃の薬 (1)	
ヒメガマ	現在	ドライフラワー (1)	
ホオノキ	現在	杖 (1)	
ムベ	現在	一部食用、観賞用、自宅で栽培 (1)	
ヤブツバキ	現在	花びらを石けんのかわりにする (1)	
ヤマモモ	現在	染料 (1)	
ユズ	現在	一部食用、観賞用、自宅で栽培 (1)	
ユスラウメ	現在	一部食用、観賞用、自宅で栽培 (1)	
△ レモン	現在	一部食用、観賞用、自宅で栽培 (1)	
ワラビ	現在	染色 (1)	
<b>総称による回答</b>			
キイチゴ類	現在	一部食用、観賞用、自宅で栽培 (1)	
グミ類	現在	一部食用、観賞用、自宅で栽培 (1)	
シダ類	現在	コレクションに加えるため (1)	
ブドウ類	現在	一部食用、観賞用、自宅で栽培 (1)	
幼少時 総称数	9	現在 総称数	9
種数	58	種数	41
うち外来種	9	うち外来種	7
栽培または園芸種	13	栽培または園芸種	11

△は外来種、※はキノコ類、網掛けの種は栽培または園芸種

## 動物の利用

表7に食用のために狩猟した動物とその回答数を示した。種名による回答は幼少時では47種、現在では24種と幼少時の方が23種多く、総称による回答は幼少時では10、現在は4であった幼少時のみに回答があった種は28種、現在のみに回答があった種は6種だった。選択肢による回答で多かった上位3つの回答は幼少時ではイノシシ(30.1%)、スズメ(28.8%)、マムシ(21.8%)で、現在ではイノシシ(27.9%)、シカ(13.5%)、スズメ(4.1%)であった。自由筆記回答で多かったのは、幼少時ではイナゴ(3.1%)で、現在では回答数が多い特筆すべきものはなかった。

表8に毛皮用のために狩猟した動物とその回答数を示した。種名による回答は幼少時では9種、現在では11種と現在の方が2種多く、総称による回答は幼少時では1、現在では0であった。幼少時のみに回答があった種は1種、現在のみに回答があった種は3種でいずれも外来種であった。選択肢による回答で多かった上位3つの回答は、幼少時ではキツネ(11.8%)、ノウサギ(11.1%)、タヌキ(7.4%)で、現在ではキツネ(2.2%)、ノウサギ(0.7%)、シカ(0.7%)であった。自由筆記回答では回答数が多い特筆すべきものはなかった。

表9に販売のために狩猟した動物とその回答数を示した。種名による回答は幼少時では14種、現在では5種と幼少時の方が9種多く、総称による回答は幼少時では1、現在では0であった。幼少時のみに回答があった種は9種、現在のみに回答があった種は0種だった。選択肢による回答で多かった上位3つの回答は、幼少時ではイノシシ(4.8%)、シカ(1.5%)、クマ(0.9%)、タヌキ(0.9%)、ノウサギ(0.9%)で、現在では回答数が多い特筆すべきものはなかった。自由筆記回答で多かった種は、幼少時ではキジ(2.0%)で、現在では回答数が多い特筆すべきものはなかった。

表10にそのほかの利用の目的で採集した植物とその回答数を示した。そのほかの利用で回答のあった動物の種数は幼少時が17種、現在が7種と幼少時の方が

表7 食用のために狩猟した動物およびその回答数 (有効回答総数: 458, () は有効回答総数に対する割合(%)を示す.)

種名	回答数		備考()の数字は回答数
	幼少時	現在	
<b>種名による回答があったもの</b>			
<b>哺乳類</b>			
★ イノシシ	138 (30.1)	128 (27.9)	
★ ノウサギ	97 (21.2)	3 (0.7)	
★ シカ	51 (11.1)	62 (13.5)	
★ タヌキ	20 (4.4)	1 (0.2)	
★ クマ	13 (2.8)	7 (1.5)	
★ イタチ	4 (0.9)	・	
★ キツネ	4 (0.9)	・	
アナグマ	2 (0.4)	・	
ブタ	1 (0.2)	・	
△ アライグマ	・	1 (0.2)	
イノブタ	・	1 (0.2)	
<b>鳥類</b>			
★ スズメ	132 (28.8)	19 (4.1)	
★ キジ	87 (19.0)	14 (3.1)	
★ ヤマドリ	53 (11.6)	5 (1.1)	
ハト	4 (0.9)	1 (0.2)	
ツグミ	3 (0.7)	1 (0.2)	
キジバト	2 (0.4)	1 (0.2)	
ヒヨドリ	3 (0.7)	・	
ニワトリ	3 (0.7)	・	
マガモ	2 (0.4)	・	
ウズラ	1 (0.2)	・	
シロハラ	1 (0.2)	・	
ホオジロ	1 (0.2)	・	
アイガモ	1 (0.2)	・	
<b>爬虫類</b>			
★ マムシ	100 (21.8)	8 (1.7)	
スッポン	1 (0.2)	1 (0.2)	
<b>両生類</b>			
△ ウシガエル	4 (0.9)	・	
アカガエル	3 (0.7)	・	
<b>魚類</b>			
ドジョウ	8 (1.7)	1 (0.2)	
フナ	7 (1.5)	・	
ウナギ	6 (1.3)	・	
ナマズ	3 (0.7)	・	
アユ	2 (0.4)	・	
△ ライギョ	2 (0.4)	・	
ウグイ	1 (0.2)	・	
ギギ	1 (0.2)	・	
コイ	1 (0.2)	・	
タカハヤ	1 (0.2)	・	
ボラ	1 (0.2)	・	
アマゴ	・	2 (0.4)	
アブラハヤ	・	1 (0.2)	
イワナ	・	1 (0.2)	
<b>水生生物</b>			
タニシ	6 (1.3)	1 (0.2)	
ザリガニ	4 (0.9)	・	
シジミ	4 (0.9)	・	<幼少時>昭和18~25年頃(1)
△ アメリカザリガニ	1 (0.2)	・	
カラスガイ	1 (0.2)	・	<幼少時>昭和18~25年頃(1)
カワエビ	1 (0.2)	・	
カワニナ	1 (0.2)	・	
モクズガニ	1 (0.2)	・	
サンナイ貝	・	1 (0.2)	
<b>昆虫類</b>			
イナゴ	14 (3.1)	6 (1.3)	<幼少時>炒って醤油をかけて食べた(1), 佃煮(1)
<b>特定不能</b>			
	2 (0.4)	・	<幼少時>ヒヨト(鳥類 1), ハエ(魚類 1)
<b>総称による回答があったもの</b>			
カモ類	11 (2.4)	4 (0.9)	
ハチ類	11 (2.4)	2 (0.4)	
カエル類	7 (1.5)	・	
エビ類	1 (0.2)	・	

10種多く、総称による回答は幼少時では2、現在では1であった。幼少時のみに回答があった種は13種、現在のみに回答があったのは3種だった。利用用途についてみると、幼少時では主に「寒さ予防」「腰皮」といった防寒具としての利用や「はく製」「自家飼育」といった鑑賞利用、薬用利用、「釣り餌」「鶏の餌」といった飼料としての利用というように多様な用途がみられた。一方、現在では、主に「頭骨標本」「巣を飾る」といった鑑賞利用がほとんどであった。また、幼少時の回答にはみられない「駆除」の回答がみられた。

表7 つづき

種名	回答数		備考()の数字は回答数
	幼少時	現在	
ピナ	1 (0.2)	・	<幼少時>(タニシに似たもの宮崎県えびの市の呼び名)
スズメバチ類	1 (0.2)	・	
ネズミ類	1 (0.2)	・	
モロコ類	1 (0.2)	・	
砂ホリ	1 (0.2)	・	
川魚	1 (0.2)	・	
カニ類	・	1 (0.2)	
ムジナ	・	1 (0.2)	
総称数	10	4	
種数	47	24	
哺乳類	9	7	
鳥類	13	6	
爬虫類	2	2	
両生類	3	0	
魚類	11	4	
水生生物	8	2	
昆虫類	1	1	

★は選択肢による回答、△は外来種、網掛けは家畜・家禽を示す。

表8 毛皮用のために狩猟した動物とその回答数 (有効回答総数: 458, () は有効回答総数に対する割合(%)を示す.)

種名	回答数		備考
	幼少時	現在	
<b>種名による回答</b>			
★ キツネ	54 (11.8)	10 (2.2)	
★ ノウサギ	51 (11.1)	3 (0.7)	
★ タヌキ	34 (7.4)	1 (0.2)	
★ イタチ	18 (3.9)	2 (0.4)	
★ シカ	13 (2.8)	3 (0.7)	
★ イノシシ	9 (2.0)	2 (0.4)	
★ クマ	9 (2.0)	1 (0.2)	
テン	1 (0.2)	1 (0.2)	
アナグマ	1 (0.2)	・	
△ ビーバー	・	1 (0.2)	
△ マスクラット	・	1 (0.2)	
△ ミンク	・	1 (0.2)	
<b>総称による回答があったもの</b>			
ムジナ	1 (0.2)	・	
総称数	1	0	
種数	9	11	

★は選択肢による回答、△は外来種を示す。

謝 辞

本研究におきましてアンケートにご回答くださいました「ひとくせセミナー倶楽部」の会員の皆様には感謝いたします。また、アンケート結果の入力については馬渡朝子氏にご協力いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。なお本研究は、平成18年度人と自然の博物館総合共同研究「ひょうごの生物多様性ホットスポットの過去・現在・未来」の一環として行いました。

文 献

赤羽正春 (2001) 採集 ブナ林の恵み. 法政大学出版局, 東京, 286p.  
 榎 勇 (2004) 北但馬ムラの生活誌—昭和初期の歳事と民俗. 彩流社, 東京, 544p.  
 環境省 (編) (2002) 新・生物多様性国家戦略 自然の保全と再生のための基本計画. ぎょうせい, 東京, 315p.  
 丸山徳次, 宮浦富保 (編) (2007) 里山学のすすめ—文化としての自然—再生にむけて. 昭和堂, 京都, 374p.  
 中尾佐助 (1966) 栽培植物の農耕の起源. 岩波書店, 東京, 192p.  
 根本 智, 小幡和男, 栗栖宣博, 太田俊彦, 戸束吏絵 (2006) 茨城県内における薬用植物の利用と暮らしとの関わり 第33

回企画展「Yakuso- 野山は自然のくすりばこ」アンケート調査より. 茨城県自然博物館研究報告, 9, 95-104.  
 大越美香, 熊谷洋一, 香川隆英, 飯島 博 (2003) 水辺における子供の遊びの変遷と動植物に対する認識. ランドスケープ研究, 66(5), 733-738.  
 大越美香, 熊谷洋一, 香川隆英 (2004) 里山における子供時代の自然体験と動植物の認識. ランドスケープ研究, 67(5), 647-652.  
 佐々木高明 (1982) 照葉樹林文化の道—ブータン・雲南から日本へ. 日本放送出版協会, 東京, 253p.  
 佐々木高明 (1993) 日本文化の基層を探る—ナラ林文化と照葉樹林文化. 日本放送出版協会, 東京, 253p.  
 上山春平 (編) (1969) 照葉樹林文化. 中央公論社, 東京, 208p.  
 梅原 猛, 安田喜憲, 南木睦彦, 岡本素治, 渡辺 誠, 市川健夫, 太田 威, 石川純一郎, 中川重年, 齊藤 功, 大場達之, 西口親雄, 泉 祐一, 四手井綱英 (1995) ブナ帯文化. 新思索社, 東京, 291p.  
 八坂書房 (編) (2001) 日本植物方言集成. 八坂書房, 東京, 946p.

(2007年7月24日受付)  
 (2007年9月13日受理)

表9 販売のために狩猟した動物とその回答 (有効回答総数: 458. ()は有効回答総数に対する割合(%)を示す.)

種名	回答数		現在	割合(%)
	幼少時	現在		
<b>種名による回答があったもの</b>				
<b>哺乳類</b>				
★ イノシシ	22	(4.8)	3	(0.7)
★ シカ	7	(1.5)	1	(0.2)
★ クマ	4	(0.9)	1	(0.2)
★ タヌキ	4	(0.9)	.	
★ ノウサギ	4	(0.9)	.	
★ キツネ	3	(0.7)	.	
★ イタチ	2	(0.4)	.	
<b>鳥類</b>				
★ ヤマドリ	5	(1.1)	1	(0.2)
キジ	9	(2.0)	.	
★ スズメ	8	(1.7)	.	
ツグミ	1	(0.2)	.	
メジロ	1	(0.2)	.	
<b>爬虫類</b>				
★ マムシ	16	(3.5)	2	(0.4)
<b>水生生物</b>				
シジミ	1	(0.2)	.	
<b>総称による回答があったもの</b>				
カモ類	1	(0.2)	.	
総称数	1		0	
種数	14		5	
哺乳類	7		3	
鳥類	5		1	
爬虫類	1		1	
水生生物	1		0	

★は選択肢による回答, △は外来種を示す。

表10 そのほかの利用のために狩猟した動物とその回答数

種名	利用時期	利用方法 ( )は回答数
<b>種名による回答</b>		
<b>哺乳類</b>		
シカ	幼少時	ズボンに寒さ予防に(1)
	現在	つの飾り(2)
	現在	頭骨標本(1)
クマ	幼少時	はく製にして置物にする(1)
	現在	頭骨標本(1)
イタチ	幼少時	伝書鳩飼育中の有害獣に付き(1) 魚の追い込み用(1)
アナグマ	幼少時	登山時の腰皮(1)
イノシシ	現在	頭骨標本(1)
カヤネズミ	現在	拾った巣を飾っている(1)
モグラ	幼少時	薬用(1)
<b>鳥類</b>		
ウグイス	幼少時	自家飼育(1)
オシドリ	幼少時	はく製(2)
キジ	幼少時	はく製(2)
セキレイ	幼少時	ヒナの飼育(1)
ダチョウ	現在	未回答(1)
メジロ	幼少時	鑑賞飼育(4)
<b>爬虫類</b>		
マムシ	幼少時	マムシ酒(2)
	幼少時	ぬりぐすり(1)
	幼少時	薬用 (皮をはいで干し黒く焼いてご飯とこ)
アオダイショウ	幼少時	伝書鳩飼育中の有害獣に付き(1)
<b>昆虫類・水生生物ほか</b>		
ミミズ	幼少時	解熱剤 (煎じて) (1)
	現在	つりえさ(2)
イナゴ	幼少時	鶏のエサ(2)
ミノガ	幼少時	ミノムシの皮を集めてサイフを作った(1)
ムカデ	幼少時	ガラスの瓶にごま油と一緒にムカデを入れ
<b>総称による回答があったもの</b>		
ガザ (川虫)	幼少時	つりえさ(1)
	現在	つりえさ(1)
ハチ類	現在	拾った巣を飾っている(1)
ホタル類	幼少時	電気代わりりにしていた(1)
ワシ類	幼少時	はく製(1)

網掛けは家畜・家禽を示す。

付録 1

(2) ご自身の採集動物の利用経験についてお聞きします。以下の表に示した野生動物を利用したことがありますか？用途別に利用したことのある植物名を○で囲んでください（複数回答可）。  
 ※1 子供の頃については、近所の大人が使っていたものも含めてください。  
 ※2 日常的な利用、お祭り・行事等の非日常的な利用のいずれを問いません。

利用時期	用途	利用した動物
子供の頃に利用 (親や近所の大人も含む)	食用	クマ、シカ、イノシシ、ノウサギ、イタチ、キツネ、タヌキ、マムシ、キジ、ヤマドリ、スズメ、その他か( )
	毛皮用	クマ、シカ、イノシシ、ノウサギ、イタチ、キツネ、タヌキ、その他か( )
	売り物にした	クマ、シカ、イノシシ、ノウサギ、イタチ、キツネ、タヌキ、マムシ、キジ、ヤマドリ、スズメ、その他か( )
	そのほかの利用	(野生動物名: ) 利用方法: ) (野生動物名: ) 利用方法: )
今、現在利用している	食用	クマ、シカ、イノシシ、ノウサギ、イタチ、キツネ、タヌキ、マムシ、キジ、ヤマドリ、スズメ、その他か( )
	毛皮用	クマ、シカ、イノシシ、ノウサギ、イタチ、キツネ、タヌキ、その他か( )
	売り物にした	クマ、シカ、イノシシ、ノウサギ、イタチ、キツネ、タヌキ、マムシ、キジ、ヤマドリ、スズメ、その他か( )
	そのほかの利用	(野生動物名: ) 利用方法: ) (野生動物名: ) 利用方法: )

(3) あなたご自身のことについてお聞きいたします。

- ①今のお住まいはどこですか？市町名でお答えください。  
 兵庫県 ( 市・町)・兵庫県外 ( 府県)
- ②子供の頃のお住まいはどこですか？市町名でお答えください。  
 兵庫県 ( 市・町)・兵庫県外 ( 府県)
- ③あなたの年齢はおいくつですか？該当するものに○を付けてください。  
 ( 10代、20代、30代、40代、50代、60代、70代、80代以上 )
- ④あなたの性別は？  
 ( 男性、 女性 )

ご協力ありがとうございました。  
 返信用封筒ご利用いただきお送りください。

(1) ご自身の植物の採集経験についてお聞きします。以下の表に示した植物を利用したことがありますか？用途別に利用したことのある植物名を○で囲んでください（複数回答可）。  
 ※1 子供の頃については、近所の大人が使っていたものも含めてください。  
 ※2 日常的な利用、お祭り・行事等の非日常的な利用のいずれを問いません。

利用時期	用途	利用した植物
子供の頃に採集 (親や近所の大人も含む)	食用	リョウブ、ワラビ、ゼンマイ、ミズナ (ウワバミソウ)、ヨモギ、スズタケ・スズコ (チシマササ)、セリ、イラクサ、フキ、ウド、タラ、ノビル、ギボウシ、ジネンジョ、クサギ、ヤマブドウ、エビヅル、イタドリ、トチノキ、アザミ、アケビ、センブリ、ドクダミ、サルナシ、シイの葉、クズ、ヤマグミ、その他か( )
	食物などを包む	フキ、サルトリイバラ (カカラ、サンキライ)、クズ、ススキ、ササ、ヨシ (アシ)、ホオノキ、アカメガシワ、カンフ、シヨウガ、チガヤ、竹の皮、その他か( )
	売り物にした	リョウブ、ワラビ、ゼンマイ、ミズナ (ウワバミソウ)、ヨモギ、スズタケ・スズコ (チシマササ)、セリ、イラクサ、フキ、ウド、タラ、ノビル、ギボウシ、サルトリイバラ (カカラ、サンキライ)、ジネンジョ、クサギ、ヤマブドウ、エビヅル、イタドリ、トチノキ、アザミ、アケビ、センブリ、ドクダミ、サルナシ、シイの葉、クズ、ヤマグミ、ススキ、その他か( )
	物作りの材料	フジ、ツヅラフジ、アケビ、クズ、ススキ、チガヤ、その他か( )
今、現在採集している	そのほかの利用	(植物名: ) 利用方法: ) (植物名: ) 利用方法: ) (植物名: ) 利用方法: )
	食用	リョウブ、ワラビ、ゼンマイ、ミズナ (ウワバミソウ)、ヨモギ、スズタケ・スズコ (チシマササ)、セリ、イラクサ、フキ、ウド、タラ、ノビル、ギボウシ、ジネンジョ、クサギ、ヤマブドウ、エビヅル、イタドリ、トチノキ、アザミ、アケビ、センブリ、ドクダミ、サルナシ、シイの葉、クズ、ヤマグミ、その他か( )
	食物などを包む	フキ、サルトリイバラ (カカラ、サンキライ)、クズ、ススキ、ササ、ヨシ (アシ)、ホオノキ、アカメガシワ、カンフ、シヨウガ、チガヤ、竹の皮、その他か( )
	売り物にした	リョウブ、ワラビ、ゼンマイ、ミズナ (ウワバミソウ)、ヨモギ、スズタケ・スズコ (チシマササ)、セリ、イラクサ、フキ、ウド、タラ、ノビル、ギボウシ、サルトリイバラ (カカラ、サンキライ)、ジネンジョ、クサギ、ヤマブドウ、エビヅル、イタドリ、トチノキ、アザミ、アケビ、センブリ、ドクダミ、サルナシ、シイの葉、クズ、ヤマグミ、ススキ、その他か( )
そのほかの利用	物作りの材料	フジ、ツヅラフジ、アケビ、クズ、ススキ、チガヤ、その他か( )
	(植物名: ) 利用方法: ) (植物名: ) 利用方法: ) (植物名: ) 利用方法: )	
	(植物名: ) 利用方法: ) (植物名: ) 利用方法: )	